

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1272201193		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム ハートかしわ		
所在地	千葉県柏市高田1032-1 (電 話) 04-7142-8800		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月13日

【情報提供票より】平成21年3月3日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	3.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 2,000円		

(4)利用者の概要(3月3日 現在)

利用者人数	6 名	男性	3 名	女性	3 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低 73 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団誠高会 おおたかの森病院
---------	--------------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑が豊かで静かな環境の中に「グループホームハートかしわ」がある。敷地面積が広く、駐車場を完備した施設には、犬が飼われており、入居者の癒しとなっている。施設内はバリアフリーとなっており、廊下・トイレ・浴室は十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した設計となっている。特別養護老人ホームが併設され、レクリエーション・行事・訪問歯科・出張理美容等で連携を図り、入居者のニーズに応えた柔軟な支援が行なわれている。入居者の生活の活性化に力を入れており、季節や希望に応じた行事を実施していると共に、行事には、家族や地域の方々を招待し、外部との交流も行っている。家族との関係を大切にしており、行事への参加や日々の交流により、互いに協力し合う関係を築いている。また、入居者が少人数である事を活かし、希望に応じた個別支援を行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価において、改善項目として自己評価票の作成を職員全員で取り組むよう指摘が挙がった。今回の自己評価においては、職員全員で意見を出し合い、作成している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	今回の自己評価においては、職員全員で意見を出し合い、作成している。また、外部評価の意義を職員全員が理解し、サービスの質の向上の為、前向きに取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	入居者・家族・地域包括支援センター職員・介護相談員・民生委員・施設職員を構成員として、3ヶ月に1回、運営推進会議を行なっている。会議では、活動報告を行ない、施設の地域理解促進を図っている。回を重ねる毎に意見・情報交換が充実化されており、サービスの質の向上に運営推進会議を活用している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時や電話連絡時に意見・要望を確認している。挙がった意見や要望においては、職員間で周知・検討を行い、適切な対応に努めている。また、月に1回介護相談員が来訪しており、外部からの意見も参考にサービスの質の向上に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩の時に近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれている。地域行事には積極的に参加していると共に、市の複合施設にて行なわれる「ふれあいりハビリ」に参加しており、体操・コーラス等の活動を通じて地域の方との交流を図っている。また、今後も継続的に運営推進会議にて、民生委員の方との情報交換を行い、地域交流の場を設ける予定である。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会に根ざした施設として地域と共生する、入居者が安心できる生活、生命を最大限に保証する、敬愛を持って接遇する、ニーズに即応するを主眼とした法人の理念を掲げていると共に、毎年、事業所の目標を職員全員で考案している。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務において、申し送りの際に理念の確認を行い、職員への周知を行なっている。また、半年に1回、考課査定を行い、理念の理解度を確認している。理念や目標を玄関に掲示し、家族等の来訪者に理念を周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれている。地域行事には積極的に参加していると共に、市の複合施設にて行なわれる「ふれあいリハビリ」に参加しており、体操・コーラス等の活動を通じて地域の方との交流を図っている。また、今後も継続的に運営推進会議にて、民生委員の方との情報交換を行い、地域交流の場を設ける予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価において、改善項目として自己評価票の作成を職員全員で取り組むよう指摘が挙がった。今回の自己評価においては、職員全員で意見を出し合い、作成している。また、外部評価の意義を職員全員が理解し、サービスの質の向上の為、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・家族・地域包括支援センター職員・介護相談員・民生委員・施設職員を構成員として、3ヶ月に1回、運営推進会議を行なっている。会議では、活動報告を行ない、施設の地域理解促進を図っている。回を重ねる毎に意見・情報交換が充実化されており、サービスの質の向上に運営推進会議を活用している。		

【千葉県】グループホーム ハートかしわ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会に加入しており、連絡会を通じて市に意見や要望を提出している。また、市に対して業務全般における相談や連絡を随時行ない、連携を図っている。月に1回市から派遣された介護相談員が来訪し、相談や意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況を報告していると共に、グループホーム便りを郵送し、行事予定・個別の生活状況・施設からのお知らせ等を報告している。また、生活状況に変化があった場合や必要時には随時電話にて家族に連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話連絡時に意見・要望を確認している。挙げた意見や要望においては、職員間で周知・検討を行い、適切な対応に努めている。また、月に1回介護相談員が来訪しており、外部からの意見も参考にサービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所、人材は安定しているが、職員の異動・入退職があった場合等はグループホーム便りや家族の面会時に報告をしている。異動においては、併設施設からの異動になるので、すでに顔馴染みの関係ができています。入職があった場合には、慣れた職員と一緒に業務を行うと共に、入居者と歓送迎会を行い、出来るだけ早く馴染みの関係が築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	柏市グループホーム連絡会にて行われる勉強会や外部研修には積極的に参加をしている。研修参加後は、報告書・資料の回覧にて、情報の共有を図っている。月に1回内部研修を行い、職員の育成を行なっている。また、併設の特別養護老人ホームにて衛生管理委員会等が設置されており、委員会にて開かれる勉強会や事例検討会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、他施設との意見・情報交換を行っていると共に、勉強会・見学会等が開かれ相互の質の向上に努めている。また、コンサートや外出会等の合同行事が行われており、職員・入居者・家族間の交流も図られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や相談を随時受け付けており、施設の雰囲気・方針を理解した上での入居に努めている。入居後は、本人の生活歴や意向に沿った支援を行なうと共に、必要に応じて家族にも協力してもらい、安心した生活を送れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は、園芸や料理が得意な入居者からアドバイスを受けると共に、人生経験や生活の知識を学んでおり、共に支え合う関係が築かれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族・本人と面談を行い、本人・家族の意向や生活歴等を記録している。また、日々の生活において、本人・家族から意向を確認し、記録している。定期的に意向や生活歴等を記録した基本情報表を更新し、常に新しい情報が職員へ周知されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、会議にて職員が意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。また、面談時にて確認した本人・家族の意向や生活歴に合わせた介護計画の作成に努めている。作成後は、職員への周知を図ると共に、家族に説明を行い、了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っていると共に、生活状況に変化があった場合や必要と判断された場合には、随時見直しを行っている。見直しにおいては、職員全員で意見・情報を出し合い、計画作成担当者が作成している。家族と出来るだけ話し合う機会を多く持ち、意見・要望の確認に努めており、本人・家族の意向を反映させた介護計画の作成に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームにて、訪問歯科・訪問理美容・合同行事・レクリエーション等が実施され、様々な連携を活かし、入居者の希望に応じた支援がなされている。入居者が入院した時は、お見舞いに行き、医師との情報交換をしながら早期退院に向けた支援を行なっている。また、入居者の希望に応じて買い物や外出等に付き添い、柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっており、希望により職員が通院を支援している。定期的に歯科往診を実施し、口腔ケア・歯科治療がなされていると共に、必要に応じて内科往診を実施しており、適切な医療支援が行なわれている。また、併設の特別養護老人ホームの看護師に相談を行なえる体制ができており、適切な健康管理が行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期についての方針等は明文化していないが、介護計画の見直しの時期に終末期における本人・家族の意向を毎回確認し、記録している。重度化した場合には、家族・医師と相談をしながら、施設として出来る限りの支援を行ない、本人・家族の意向に沿った終末期を支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類においては、事務所にて保管し、個人情報の保護に努めている。施設独自に接遇ルールを定めており、その人に合った言葉遣いやさりげない介助を職員が意識していると共に、入浴・排泄時のプライバシー保護の重要性を意識し、入居者の尊厳を尊重したサービスを提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は定めておらず、本人のペースや希望に沿った生活を支援している。また、本人の希望に応じて散歩やレクリエーション等に参加してもらっていると共に、特技を活かした活動を支援しており、本人らしい生活を支援している。希望が言い出せない入居者に対しては、日々の観察や会話の中から希望を汲み取っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備、片付け等は希望により共同で行っている。食材においては、業者に依頼し食材を配送してもらっている。また、行事に合わせてお弁当やケーキ等を用意している。馴染みの食器や有田焼の食器を活用し、楽しい食卓作りに努めている。定期的に外食会を企画・実施し、入居者の食の楽しみを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数や時間等柔軟に支援している。また、清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。浴室は広く、床暖房も設置されており、快適な入浴を支援している。入浴拒否に関しては、声掛け等を工夫し、無理強いしないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。毎日、塗り絵や歌等のレクリエーションを実施していると共に、園芸等の得意分野を活かした趣味活動を支援している。また、併設施設のレクリエーション活動や合同行事に参加し、楽しみを提供している。定期的に行事を企画・実施し、家族や地域住民を招待し、様々な人との交流を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて散歩や買い物等の外出を支援している。地域で行なわれている「ふれあいハピリ」に参加し、地域との交流が行われている。また、定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックとなっているが、入居者は開け方を知っている為、外への出入りは自由となっている。外に出た際は、見守りや声掛けにて対応し、入居者の自由な生活を支援している。居室に鍵は設置されていないが、職員は入居者のプライバシーに配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルや緊急連絡網を作成している。避難訓練・消防訓練を2ヶ月に1回、併設施設と合同で行っている。訓練の時は、職員、入居者、近隣住民も参加していると共に、夜間を想定した訓練等も行われている。また、併設施設にて備蓄や緊急持ち出し袋が用意され緊急・災害時への対策がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成していると共に、嗜好や能力に応じた食事提供がなされている。また、水分の摂取目標を定めており、食事・水分の摂取量を記録している。摂取量が不足している場合は、好みの物や摂取しやすい物に変更し、必要な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はバリアフリーとなっており、廊下や共有スペースは広く設計されている。リビングには、テーブルやソファが設置され、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、エアコン・換気扇・加湿器にて適切な空調管理がなされている。トイレ・浴室は十分な介助スペースが確保されていると共に、呼び出しブザーが設置され安全面に配慮されている。中庭には畑があり、ボランティアと共同で野菜や花の栽培を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により、馴染みの物を持ち込む事が可能であり、居心地よく生活できるよう配慮している。全居室にエアコンや換気扇が設置され適切な空調管理がなされている。全居室に洗面台が設置され利便性に優れていると共に、希望に応じてナースコールを設置し、安全面に配慮している。入り口には写真入りの表札があり、入居者がわかりやすくなっている。		